

令和5年度 北見カトリック学園 北見マリア幼稚園 学校評価

1.教育目標

- ・神様の愛を信じ、のびのび育つ子。
- ・自分の事は自分でできる独立心のある子。
- ・友だちと仲良くし、楽しく遊べる子。
- ・手足を十分に使い活発に遊ぶたくましい子。
- ・自分の考えを伝え、人の話をよく聞く子。
- ・感謝と祈りがいつでもどこでもできる子。

2. 教育目標達成に向けての令和5年度の重点

- ・神様から賜った個性に感謝し、お互いを認め合う心を育む。
- ・神様や親からの大きな愛を感じ、命を大切に育てる。
- ・友達、教師、家族との関わりを楽しみ、信頼を寄せ豊かな人間関係を築こうとする子を育てる。

評価項目	結果	理由
教育内容・環境の充実と計画性	3.9	教育・保育内容がマンネリ化していないかの振り返りを行い、自園の良いところを再確認しながら子ども主体の保育・教育の計画を行うことが出来た。 自園調理給食開始から1年3か月が経過し、食事のマナーや食育を保育に積極的に取り入れたことで、園児の食事への関心が深まった。例年行っている野菜の栽培・収穫活動にも意識が見られた。
保育の充実と園児との関わり	3.9	担任と臨時職員との連携が円滑で保育の充実が図れた。特に特別支援児への対応、全職員が共通理解を行い、クラス以外の全園児一人ひとりと関わる意識が浸透しており、保育の充実と共に基本的な生活習慣が身についた。特に挨拶や相手への感謝の言葉「ありがとう」の言葉が聞かれている。保護者からも職員との良好な関わりを持っているとの評価があった。 また、体力づくりを園の特色に掲げ、全園児の体力測定を行ったことは良かった。
安全管理	3.6	毎月1回の園児と職員の実践訓練や集会で学習により、全園児での一斉訓練(火災・地震)では指示に集中し行動することができていた。 不審者対策職員実践訓練は次年度計画予定。動画での研修なども活用して職員の対策意識を高める。遊具の正しい使い方の周知、園庭遊具の職員配置について次年度はさらに徹底したい。
地域の幼児教育機関としての役割	3.5	子育て相談を充実させ、核家族、特別支援児を育てる保護者のネットワーク的役割を担えるように計画。老人施設訪問や小学校との交流事業の復活ができなかったが中学生の職場体験を2校と実施できた。また、昨年度から始めた地域の公共商業施設への職場訪問は公共のルールを学び、園の教育保育を周知され良い機会となった。園児や保護者が地域の方と自然に挨拶を交わせる関係を築き、園の活動内容を定期的に広報していく。
教員の資質・能力向上	3.8	准職員、補助職員の資質向上はなかなか研修時間確保が難しく課題だが、ケース会議により支援の手立てをより具体化できている。 園内、姉妹園との保育交流を行い、保育環境の整備、導入の準備、園児への指導方法を学ぶことができた。また管外の見学保育に参加したことで刺激を受け保育の幅が広がったことは良かった。
保護者との連携	3.9	全家庭個人面談を行い、成長を伝え今後の課題を確認できたことは良かった。 保護者連絡ツールアプリ「コドモン」での連絡がスムーズになりメリットを感じる。日常の写真などを送ることが出来ることは保護者の安心信頼につながった。 今年度初めて行った体力測定の結果を各家庭に配布。成長を数値で分かることは良かった。次年度も継続する。

※結果の表示方法 4 十分達成されている 3 やや達成されている 2 あまり達成されていない 1 取り組まれていない

4. 令和5年度の総評

結果	理由
3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理については、今年度も月1回の防災訓練を行い、災害時の行動をイメージできた。更に、防災DVDやイラストパネルの教材を利用することにより、意識と理解が高まった。 ・子育て支援センターきらり通所児は、保護者の希望に沿った支援、導きが出来ているとの評価をいただいた。 ・支援園児の保護者との対応連携は充実傾向、他の保護者からの特別支援統合保育への理解も徐々に広まっている。 ・職員の研修意識が低かったが今年度は積極的にオンライン研修等に参加し、新たな保育計画を実施することにより職員自信と充実感が見られたことは良かった。 ・学期末に怪我があり、職員の安全管理意識を徹底し、マニュアルの確認を行った。 ・全園児体力測定を行い各家庭へ測定結果を知らせたことは、体力づくりに力を入れていることの具体化が出来た。
	<ul style="list-style-type: none"> ・統合保育(障がい児保育)の理解を広め、他面的な子育て支援ができる園として計画をする。 ・特別支援児と家庭との信頼関係を築き、自己肯定感を持てるよう支援する。 ・職員個々の資質を向上させ責任と喜びを持って教育・保育に従事し、お互いを認め合い高め合える職員関係をつくる。 ・絵画、モンテッソーリ、体育活動、特別支援等の研修時間の確保。特に体力づくりを行う。 ・社会事情に関心を持つことや異業種交流など、教育・保育に活かせる機会を得る。 ・年休(正規職員、准職員、補助職員)、休日、補助職員の急な休み等に対応する体制の工夫。 ・クラス、年齢別、1号児預かり、2号児全ての保育に全職員が全園児に関わる意識を持つ。